

	アイデア名称	アイデア内容	地域
1	ふれあいいきいきプラン	空き教室を防災の学びの場所、避難場所として活用	大阪
2	弱者地域災害時救援ネットワーク作り	自治会、民生委員等を軸として住民のネットワークをつくり、防災学習会、安否確認、避難誘導などを行う	山口
3	玄関非常灯	障害者がいる家の玄関に赤色などの電球を設置して、災害時に取り残された時に点灯させ、救助を求める。	大阪
4	なし(玄関ステッカー)	障害を持つ人の家の玄関に「障害者マーク」のステッカーを貼り、災害時に近所の人が様子を見に行けるようにする	大阪
5	らくらくおんぶ大会	障害者・高齢者がいざというときに「おんぶ」の必要が生ずるので、筋力アップや工夫をするためにおんぶ大会を開く	兵庫
6	ステップ薬カレンダー	ペットボトルを利用した1週間の薬入れ 緊急時の薬管理用	北海道
7	なし(障害者マーク)	玄関に障害者マークを貼り、災害時に近所の人に助けてもらいやすいようにしておく	沖縄
8	防災の達人～防災学習ソフト	災害の様々な状況に対応出来るよう、パソコンによる学習ソフトをつくる	香川
9	凹凸オーケーカー	折りたたみ式プロペラのついた車イス(消火器つき)で、ガレキなどの上を飛んで走行できる	大阪
10	音声居場所調セ車イス	瓦礫の下に埋もれたときスイッチで大声が出せ、助けを呼ぶことができる車イス(消火器つき)	大阪
11	カタコト車イス	タイヤをなくし、リムだけで走れる車イス(消火器つき)。凸凹道や小さい階段でも走行ができる。	大阪
12	発光体車イス	ガレキに埋もれたときなど、スイッチで発光させることができ、光で居場所を知らせる車イス(消火器つき)	大阪
13	一足飛び車イス	スプリング式棒をとりつけ、ガレキや石などを棒高跳びのように、1メートルくらい飛べるようにした車イス(消火器つき)	大阪
14	組み立て式簡易トイレ	アルミのフレームと布で壁を作り、中に洋式便器(組み立て式)を組み込んだ簡易トイレ	広島
15	お助けマン	目の不自由な人が避難する時に、センサーで前方の道路の危険を感知し、音声で報せてくれる道具	静岡
16	車イスの防火服	車イス型の防火服。頭にはヘルメットをつける	静岡
17	災害時救出マップ	障害を持つ人や寝たきりの老人がどこに住んでいるかわかるマップを作り、各地区で配る	静岡
18	コンパクトブザー	携帯電話の形で非常連絡のできる装置	静岡
19	歩くほどう(てすりつき)	もしものことがあった時に、少しでも早く避難所にいけるように手すりつきの歩く歩道を設置する	静岡
20	GPS機能付リストバンド	健康情報・障害程度などを腕時計型リストバンドに入れる またこのリストバンドにGPS機能をつける	静岡
21	じしんがきた時	じしんがきたら防災頭巾をかぶって、足が不自由な人の家に1台車イスを置けばいいと思う	静岡
22	ばんのう車イス	車イスに消火、ポート、高速走行、カーナビなどの機能をつける	静岡
23	ナビゲーター	自動で動くロボット。リモコンにモニターと音声装置をつけ、ロボットが出会った人と話もできる	静岡
24	おたすけ車イス	車イスにベルとランプを取り付け、埋もれてしまったときに近くの人に報せる	静岡
25	地しんのときの便利グッズ	笛、方位磁石、食料、水、サバイバルナイフなど災害時の非常グッズ	静岡
26	障害者市民は私たちが力を合わせて守ります	障害を持っている人をみんなで囲んだかわいい絵と作文	静岡

	アイデア名称	アイデア内容	地域
27	小型発信機(災害の時 用)・軽量	ケイタイ型...発信機1~5番の番号で警察に連絡したり、居場所を報せたりする専用ケイタイ。腕時計型発信機...ボタンが三角や四角になっていて、ボタンで警察に連絡したり、居場所を報せる	静岡
28	小学5・6年生&中学生、防災運動	小学生・中学生が参加できる防災訓練の実施	静岡
29	かざん	火山が噴火し、車イスの人と介助する人が避難している絵	静岡
30	消火器つき車イス	消火器のついた車イス	静岡
31	ふんでもダイジョーブ	じしんがきて、ガラスが割れたときでも自由に動けるくつした	静岡
32	障害者専門救助隊	事前登録制で、最優先に障害者の人を安全なところに避難させる団体	静岡
33	なし	火事でおばあさんを助ける人の絵	静岡
34	なし(避難のアイデア)	警報が出たときの優先避難 パリアフリー避難所を作る 消防団などが障害を持つ人の家やよくいる場所・寝室を把握しておく	静岡
35	うごくベッド(足の不自由な人のため)	足の不自由な人などのために寝てるときに地震や火事が起きても車イスと同じように自分で操作して逃げられるようにする	静岡
36	そのまま点字プレート	今の点字器は点字を打つとき裏からになるが、打ったほうから読めるようにできる点字器具。 タイプライターと違って安くでき	静岡
37	車イスが後ろの方へたおれる	背もたれがリクライニングする車イス	静岡
38	車イスを使用する方の地しんどうぐ	家具の転倒防止器具。緊急時に助けてもらう呼び出しボタン	静岡
39	ひなん所が分かる様に	避難所がすぐ分かる様に光って報せる看板や、避難所までの案内板をとりつける	静岡
40	4輪く動車イス	車イスのタイヤを太く、溝が入ったものにし、でこぼこ道や階段ものぼれるようにする	静岡
41	おむかえバス	事前登録制で、災害時に迎えに来てくれるバス	静岡
42	イス舟	タイヤから船のようなものが出てきて、洪水時に使用できる車イス	静岡
43	ノープロブレム・ウォーター・アンド・レーダー	車イスにコンパクトでも強力な消火器、GPS機能で居場所を報せる機能、洪水のときに浮く服などを取り付ける	静岡
44	ねたりおきたりできる車イス	車イスを移動したりいつでも寝たり起きたりできる。石が落ちて行きづらくてもどけてくれる	静岡
45	なし(川柳)	寝る前に 鉄?(読みわからず)なでし くせ作り	和歌山
46	私製葉書活用他	私製葉書活用...私製葉書を使うことで50円切手(防災切手)を活用し防災意識を高める。EメールのBGM機能の活用...携帯電話のBGMを利用し、発信するだけで消防署などに用件を伝える工夫をする	福島
47	浮き袋つき車イス	津波や洪水がきても大丈夫なように浮き輪や風船をつけた車イス	大阪
48	障害者災害時パスポート	病院名、投薬内容、連絡先などを書いたカードを常に持ち、災害時に治療や薬がスムーズに受けられるようにする	大阪
49	発信機つき防災頭巾	GPS機能により所在を報せる発信機つき防災頭巾	東京
50	なし(温度計つきアラーム)	火災を報せるため、ある一定の温度になるとアラームがなる温度計つきアラームを取り付ける	栃木

	アイデア名称	アイデア内容	地域
51	なし(浸水防止シート)	軒先にフィルムやシートを取り付け、家が浸水しそうになる時にボタンで下し、シートを水圧によって家に貼り付けることで浸水を防ぐ	栃木
52	なし(金魚による地震予知)	地震の前兆として、金魚が水槽のそこに張り付く経験を持っている。金魚を地震の予知として飼う	栃木
53	二段ベッド活用隊	避難所において、二段ベッドをおく。側面を利用し、カーテンなどをつければプライバシーが保てるし、腰をかけることもできる	福岡
54	被害軽減のためのライフラインブロック化	電気、水道、ガスなどを貯水槽やガスホルダー、自家発電装置によって地域ごとにブロック化しておき、災害時には災害ブロックを遮断する。また地域ごとに情報伝達を行う(障害を持つ人は事前に把握しておく)	宮城
55	障害者・高齢者専用避難所案	小規模作業所を障害者・高齢者専用避難所として整備	兵庫
56	住宅耐震工事の促進で内需拡大と行政負担の軽減	個人の住宅の耐震工事を地元業者に請け負わせ、万一家屋の倒壊がおきた時は書類提出で行政が保障する保険的な仕組みを作る	奈良
57	避難してます(ステッカー安心)	「 に避難して 있습니다」のステッカーを作る(夜は光るようにする)。避難時にこのステッカーをポストなどに貼れば、安否確認に役立つ	奈良
58	避難場所には井戸水の確保を	各地域の学校や公園に井戸を設置し、災害時に役立てる	奈良
59	「救」の旗の設置	「救」の旗を作って、日頃から表に出し、地域の人に災害時に支援が必要なことを報せる	奈良
60	障害者のための防災と減災	火事の際に障害を持つ夫を負って避難した経験をもとに、助けを求めること、水や情報の大切さを訴える	福島
61	視覚障害者用ライター、車イス軽快漕ぎ機	視覚障害者が使いやすいライター。手の力が弱い人でも使用できる車イス。	岡山
62	呼び笛の運動	大地震で閉じ込められたときに、救出を求められるようにいつでも笛を身につけておくことを広げていく運動	岡山
63	なし(ブルーシート連結金具)	ブルーシートの穴の部分に小さいネジ式の金具を取り付けブルーシートをつなげる	栃木
64	自家製地震探査装置(風鈴)	地震の初期微動を室内に風鈴をつるしておく事によって知る	不明
65	災害救援カルタ	災害救援のカルタを作って防災に役立てる	大阪
66	国民災害を考える日の設定	阪神淡路大震災の起こった1月17日を国民災害を考える祭日の日とする	大阪
67	災害緊急ダイヤルの設定	110番(警察)、119番(消防)、118番(海の事故)などのように大災害の時の電話番号を決める	大阪
68	防災まちづくり漫才で明るく広報	若手漫才でギャグ(ある時、ない時など)とっている売出しの漫才師が大災害の時どんな事が必要かの話をも漫才でやってもらい、防災まちづくりの広告塔になってもらう(水があるとき・・・、ないとき・・・)	大阪
69	災害救援支援システム	障害児・者、高齢者など支援を求める人を事前に登録 毎年数回研修や交流をもち、災害発生時に備える	大阪
70	防災ネットワーク	障害者が避難所で生活するにあたり、マンパワーを確保するため、ヘルパーや理学療法士などのボランティアが活動するためのマニュアルづくりや研修を行なう	大分
71	防災ネットワーク	障害者と民生委員、近所の人とのネットワークを作り、災害時に支援する。電話不通のときのため、連絡方法として無線やアラームなども取り入れる	大分
72	防災グッズ	防災グッズ。無線代わりにコールブザー(必ずどこかへ通じるもの)、簡易ストレッチャー、ヘルメット、体を保護する弾性ストッキング、安全ベルトなど	大分
73	防災は人づくり	アイデア名称のとおり、ハード面よりも人づくりが防災のスタートだと訴える	兵庫

	アイデア名称	アイデア内容	地域
74	災害時に直通回線における交通機関の減災	気象庁などの連絡により、警報を発令する場合、スイッチ一つで様々な指令所や各駅にすぐにランプ(ブルー、イエロー、レッド)などで知らず事が出来る直通回線をつくる	大阪
75	簡易ろ過装置	パケツを利用して、そこに穴を開け、布、炭、粗石、砂を順に敷き詰め川の水などのろ過装置とする	新潟
76	情報伝達システム	携帯電話の電池切れをなくするために充電器を共通の規格にする。災害時には免許をもっていない人も無線が使えるようにし、無線を経由してコンピューターにも情報を伝達できるようにする	新潟
77	発電機ならびに充電器について	ガソリンではなく自転車のようなもので発電を考え、人工呼吸器をつけた人の停電時の対応を考える	新潟
78	ご近所ささえ隊	ハンディキャップをもつ人を中心とし、ご近所でグループを作る。緊急連絡カード作成とともに、お茶飲み会や防災訓練等を行う	山口
79	障害者のための防災の知恵(防災頭巾)	地震で屋根瓦が落ちてきたりする時に頭を守る防災頭巾を準備するとともに、防災頭巾に携帯電話を入れておき、連絡がすぐに取れるようにする。	新潟
80	災害時特別障害者高齢者用ダイヤル	障害者、高齢者の携帯電話の登録を警察、NTT、携帯会社、ヘルパーステーションなど行なって、どんな災害時にも利用できるようにする	大阪
81	等高線地図の作成と配布	津波対策として、自宅などが海拔何メートルにあるかを知るため、等高線地図を作成して配布する。このことによって、避難対策がたてやすくなる	東京
82	非常時電話回線確保の必要性	災害時にいつも電話回線がパンクし、安否確認に苦労するので、回線を増やしたり、衛星の利用などをして抜本的な改革をする	山口
83	身元確認の方法	スマトラ沖津波の時には遺体の身元確認で苦労したと聞いたので、誰もがブレスレッドやネックレス状の識別表を持っておき、身元がすぐに分かるようにする	山口
84	こんな街で暮らしたい!	日頃の備え=家具転倒防止他6件、地域における支援体制づくり=地域における災害弱者の把握他3件。災害発生時の安否確認=災害弱者の安否確認と避難場所への誘導。避難場所での行動=ボランティアの確保他7件	広島
85	水害時ロープ受け取り簡単ライフジャケット	水害で流された時に、ロープを渡されても力が尽きて放してしまうため、救命胴衣のようなものにフックを取り付けておき、ロープをそれに引っ掛ける。	新潟
86	逃げメット	ヘルメットに赤色ランプをつけ、災害時に活用する	新潟
87	盲目のSOSステッキ	ステッキにブザーランプをつけ、災害時支援が必要な時に知らせる	新潟
88	アイアム	聴覚障害者のための防犯グッズ。腕時計に防犯ベルを内蔵させ、部屋の感知器とともに室内に閉じ込められた時に周りに知らせる	大阪
89	ベッド用ロールバー	車がつぶれるのを防ぐロールバーをベッドに応用 家具の転倒などから身を守る エアバッグや非常ブザーも設置	新潟
90	情報搭載型の医療用絆創膏	障害種別や高齢者の年齢等が識別できるように色分けされた絆創膏を常に持っておき、災害時にはそれを手の甲にはって、周りの人が支援しやすいようにする	愛知
91	車イス対応型移動トイレカー	ワンボックスカーを改造し、移動可能なトイレカーを作る 汚水は飛行機や列車と同様の処理を行う	新潟
92	緊急アナウンス装置	バス停や信号機に緊急時アナウンスや災害情報が流れるよう整備する	新潟
93	障害者市民のための防災グッズ	常時つけていられる笛にメッセージ表示機能もつけ、非常時に役立つ	静岡
94	自主防災訓練へのアイデア	障害を持った方と実際に避難所まで行動し、炊き出しなどを行う	静岡
95	助けて欲しいSOSサイン	カード式メッセージ。スイッチを押すとあらかじめ登録してある文章が、文字と音声で出てくる。	静岡

	アイデア名称	アイデア内容	地域
96	「両隣の安否確認!!」フレーズ広告事業	「ボイ捨て禁止!!」のように、「災害時両隣の安否確認!!」というフレーズを全国に広める。「災害時48時間は自分達で身を守らなければいけない」というフレーズの広告事業として、ポスター、CMで広める	大阪
97	保険会社(事業)をつくらう	災害時の資金作り、スタッフ作り。全国展開をしていく	千葉
98	ゆめ・風賞	日本、いや志は大きく世界の災害支援賞をつくる。地域支援活動や研究、学習、文化・出版、建築、情報、保健などの分野で賞を作る	千葉
99	ゆめ・風白書	活動報告も含めて、問題、課題、展開をまとめていく事は必要ではないか?それとも全国からのメールやFAXや手紙や声をそのまま本にするのも白書になる	千葉
100	ゆめ・風グッズ	機会あるごとに販売、通販をしたり、店を出す。CD制作販売。Tシャツ、災害手帳、カレンダー、書籍などの販売。その他、他の企業がすでに販売しているものも買収して?販売。	千葉
101	防災ライブラリー	防災関連図書、出版物、報告書、研究所、画像等々を継続収集。阪神淡路震災ですでにあるかもしれませんが、協力して形にしておく	千葉
102	ゆめ・風ラジオ	1.17の日に全国の障害者や支援者やみんなにメッセージを贈ることができれば。みんなの声でも歌でも良いのでラジオの電波にのせられたら	千葉
103	ゆめ・風学舎(学校をつくらう!)	福祉専門学校をつくって、災害に備えて若者達を育てたい。人を育てる事をしたい	千葉
104	船貸して!	インドネシア、スマトラ沖の災害のようなときに、世界中の客船を集めて、被災者の避難先にする	千葉
105	ゆめ・風移動診療所	必要などころにすぐいけるバスみたいな動く診療所、薬局、コンビニがあったら助かるかな。他にも、動く保育所とか、出前デイサービスとか	千葉
106	ゆめ・風勝手に公認	出回っている、これからも出回る防災関連グッズをゆめ風が斬る!!良いものは推薦、良くないものは良くないと評価。できればゆめ・風公認でなければ防災グッズとしては売れないとか。そんな事を勝手にやる。	千葉
107	災害ネットワーク	災害時に障害者・高齢者の避難場所としてデイサービスセンターを利用する。又デイサービスセンターをネットワーク化し、災害時のボランティアを確保する。	大分
108	防災、町づくりについて	災害が起きても建物が壊れないように、高さ規制や耐震補強をする。水害などを起こさないように、堤防などの工夫をする。障害者の家が避難所になるように家のつくりをかえる、など様々な提案。	奈良
109	「避難所はどこ?」避難地図掲示計画	市街地の福祉施設の入り口に災害時避難場所の地図を掲げる。このことで自然に施設や施設内にいる人に注目が集まる。	大阪
110	(健常者を対象にした)車椅子マラソン大会	車イス経験のない人の車イスマラソン大会を開く。競技用車イスではなく、一般的な自操式車イスや電動車イスをつかい、障害者の理解を深める事ができる。	大阪
111	避難所用バリアフリー型簡易トイレ	避難所の簡易トイレは下部が汚物タンクとなっているため段差のあることが多いので、手動式油圧ジャッキとパレットでバリアフリートイレにする。課題としてスペースの問題が残るかもしれないが。	大阪
112	避難生活グッズ「携帯トイレ装着可能車イス」	車イスの座席シートを改良してシートの交換と座席下部に差し込む簡易便器で、車イスの人が利用可能な便器を作る。現在の折りたたみ式車椅子については座席下部にスペースが無いため改良が必要。	大阪
113	被災者達の住居	被災者達を2~3家族ごとに、各県、市、長、村の公営住宅に分散して避難所や仮設住宅を避ける。	栃木
114	「災害弱者の防災を考える」交流会	2003年にNPOとなり、災害弱者の防災を考える事業を始める2回の学習会を開催 今後防災マニュアル作成を予定	徳島

	アイデア名称	アイデア内容	地域
115	「イザメモ」の活用	自分の緊急連絡先やかかりつけ医などの情報をまとめ、自宅と作業所など、複数のところで保管し、緊急時に活用	神戸
116	災害時の障害を持つ人々・高齢者の声かけネットワーク	地域の中の障害児者・高齢者の方などがどこに住んでおられるかを調べ、声をかけていく	大阪
117	緊急通報・お知らせ電話	いざという時にワンタッチで警察・消防に電話をかける。同時にボタンを押すと玄関の外に設置した点滅ランプが作動してその部屋で緊急事態が発生している事をご近所に知らせる。	大阪
118	備えあれば憂いなし	スマトラ沖地震の持続的支援として国連やDPIを中心としたネットワーク作り。南海・東南海地震に備えた支援ネットワーク作り。事務局内部にプロジェクトチームと専従者の配置。	奈良
119	おぶいひも作っちゃいました	大人をおんぶできる長さ6mのおぶいひも。多用途に使い、ベッドちかくにかけておける	静岡
120	避難所探し隊	障害者自身が避難所を指定し、行政とともに整備する	静岡
121	背負子で、らくらく避難	おんぶや抱っこが出来ない障害をもつ方のために、座った状態で移動できる背負子をつかう	静岡
122	なし(障害者識別情報)	災害時に外見で障害者と分からない人のために、ネックレスや指輪状のもので色によって障害が分かるようなものを身につけておく またその中に個人情報なども入れておく	大阪
123	なし(障害者・高齢者のマップ)	障害者や高齢者のリスト、マップ等を作成し、町内会や民生委員の人に把握してもらって、いざという時の支援に役立てる	静岡
124	福祉避難所	障害者だけの世帯や単身障害者の避難先として福祉避難所をつくる 福祉避難所は作業所や福祉施設を利用する	兵庫
125	防災ベルの着用	どこにいてもベルのボタンを押すとその人の居場所がわかるという防災ベルを障害者が身につけておく	大阪
126	携帯電話505サービス	携帯電話のGPS機能を利用し、車におけるJAFのように、事前登録制で緊急時に駆けつけてもらうシステム	兵庫
127	障害者避難ナビセンター	ナビを各健常者・障害者に持たせて、災害の時に居場所が分かるようなセンターを作る。	兵庫
128	防災訓練時等における障害者・高齢者体験	車イスやアイマスクを利用した防災訓練の実施。障害を持つ人の震災体験をビデオ化したり、講演会をして役立てる	栃木
129	新型仮設トイレ	通常の仮設トイレは、奥行きが長いので、横からも入れるようにすれば障害者も利用可能 横川にはスロープを設置しておく また便座は正面、横どちらからでも利用できるように円形とする	兵庫
130	非常アラーム&音波発信器付車イス	車イスの横(アームレストの部分)に埋め込み式で非常アラームを付けておき、倒壊や家具転倒で圧迫されると同時に発信器で居場所を救助隊に知らせるようにする	兵庫
131	学校等公共施設入り口及びトイレへのバリアフリー化	学校等公共施設は必ず入り口及びトイレの1ヶ所をバリアフリーにしておく	兵庫
132	訓練は実践、実践は訓練から生きる	作業所等の施設は日頃災害に対して訓練をしておらず、避難所や避難所までの道順を知らない障害者が多い。	兵庫
133	避難目安への学習が第一歩	災害にあわない、遭ってもあわてないための心構え	福島
134	軽便寝具	毛布の端に袋布を取り付け、マットレスと合わせて端を固定すると、寝返りをしたときに毛布がずれる心配が無くなる またマットレスは辱層防止にもなる	福島
135	美しい草原	草原にいる女の子の絵	大阪

	アイデア名称	アイデア内容	地域
136	災害時（緊急救命避難）要支援者リスト&マップ	標題のとおり、要支援者のリストを作成し、マップにして緊急時の避難誘導等に役立てる	三重
137	善意駕籠（ヨイカゴ）作戦	担ぎ棒とネットを利用した籠を作り、災害時に障害者の避難に役立てる 担ぎ手はあらかじめ登録しておくとともに、登録者が間に合わない場合は近所の人や担ぎ手となる 年に1回大会を開いて競い合うなど、日常的な組織化を計る	大阪
138	「こんなロボットあったらいいな」とGPSに関する提案	ロボットペットで地震を予知、その情報を障害者に送る 予知は動物が普段と違う様子をする事に注目 またロボットペットにGPSを搭載し、非常時に居場所を知らせる	大阪
139	携帯電話	視覚障害者が利用しやすいように音声対応した携帯電話で災害情報を知る事ができるようにする	大阪
140	防災グッズ	作業所などにソーラー式発電機を助成制度を創設	大阪
141	なし	日本手ぬぐいに血液型や個人情報を印刷し、日常的に使う いざという時に個人情報が分かるほか、マスクや包帯マフラーとして使える	大阪
142	なし	やわらかいストローを巻いて持っておく 池などから直接水が飲める	大阪
143	避難所提案	学校のバリアフリー化とポータブルトイレ等の常備	大阪
144	避難所提案	精神・知的障害者や妊婦さん、乳幼児など人ごみがしんどい人のために、教室解放をシステム化する	大阪
145	なし	多様な施設を避難所として利用する 憩いの家、デイケアセンター、スポーツ施設、障害者会館等々 車イストイレがある、畳の部屋があるなど身近な施設	大阪
146	なし	福祉避難所の開拓 自宅や職場、作業所など避難所に使えるところを探し出し、ネットワークをつくる	大阪
147	なし	指定避難所以外の施設も避難所として位置づけるとともに、自宅や車で避難している人も登録をして救援物資を受取れるようにする	大阪
148	なし(防災への取組み)	バリアフリーチェックやホームページを通じた啓発。また町内会の協力を得て小中学生を対象とし、アイマスク、車椅子などを利用した障害者体験など防災についての講演なども企画したい	大阪
149	なし	作業所は狭い中で多くのものがあふれている 家具の転倒防止や消火器の導入、ラジオ付携帯の準備などをしたい	大阪
150	GPSに関する提案	GPS機能と方位機能などを持たせ、視覚障害者に役立つグッズの提案 たとえば腕時計型	大阪
151	「助けてください」サイン	災害の時には電話やFAXが使えなくなったりする そんな時に自宅で誰かの助けを必要とした時(例えば水害時の救出)に、わかってもらうため、日頃より旗を掲げておき、支援が必要なことを知らせる	兵庫
152	助けて!ウォッチ	非常時に助けてーと叫んでくれる機能がついた置時計 障害者が声を出せないときに代わりに叫んでくれる	大阪
153	幸せの黄色いワッペン	知的障害者の場合、災害時に支援や理解を求める事が難しいので、分かりやすいロゴを募集し、それをワッペンにしてつけてもらう また身につける代わりに玄関や入り口に張るのも良い	兵庫
154	よかところ	自閉症の子どもが避難所で落ち着けるように、折たたみ式の囲いで居場所を作る	熊本
155	障害者市民のためのネットワーク作り	身障相談員、民生委員のノウハウを活かして、日頃より障害者の転入転出状況を把握しておく。災害時には地域センターを作り、そこを拠点として避難所運営や安否確認を行なう	兵庫
156	デイサービスセンターの活用	障害者の避難所としてデイサービスセンターを行政が借り上げれば、車イスの人でも安心して利用できる	兵庫

	アイデア名称	アイデア内容	地域
157	障害者の住む住宅からのSOS	災害時に支援を求めするため、室外にパトライト(聴覚障害者が室内で利用しているもの)をつけたり、太陽光発電式のブザーなどを取り付ける	兵庫
158	4面エアバッグ付電動車イス	外で地震にあったときはエアバッグが前後左右に膨らみ体を守る 水害時にはエアバッグが浮き輪の働きをする	兵庫
159	そこのけ、そこのけ車イスが通る。	電動車イスは災害時に道路に少しの障害物があっても乗り越えられない 災害時にはボタンを押せば除雪装置のように前方の障害物を左右に払ってくれる装置があればよい	兵庫
160	ばっくあっぷ作戦	精神障害の方が緊急時でも薬の確保が出来るよう、処方箋等の情報をを保健センターや施設などに保管する	兵庫
161	カラージャンに愛を	震災があったときに大勢の人の中で助けが必要でも、「～してほしい」とは言いにくい人がいる そこで目立つ色のジャンパーを着ることで、注目されやすく、声をかけてもらえるようにし、支援をお願いしやすくする	兵庫
162	要介護者の緊急避難対策(ヘルプアップ作戦)	訪問介護を利用して介護の必要な人に緊急連絡先や避難場所等を書いたラベルを相手先の室内に、ヘルパーは相手に応じ必要な支援を書いたカードを常時携帯する。災害時には避難所にそれぞれ駆けつける。このような連携を全国の介護事業者で行なうと良い。	愛知
163	笑健(しょうけん)リズムステップでGO GO!	災害の時に足の踏み場もない状態で困った経験がある。日頃よりステップ台を利用して体操を行い、足腰を鍛えておく。老人福祉センターなどで有効。	大阪
164	L字金具で簡単に出来る和室の耐震安全対策についてのアイデア	日本は和室が多いが、流行のゲル状シートは利用できない L字金具利用で簡単に対策ができるアイデア	東京
165	UD(ユニバーサルデザイン)非常スロープ	現在の非常口はほとんどすべて階段状になっている。非常時にはエレベーターやエスカレーターが動かないので、非常階段をやめ立体駐車場のようになり非常スロープに変える。	兵庫
166	あっためてん	人肌で暖めれば開けられるナイロン(お菓子や非常食の袋)	兵庫
167	ライトサン	太陽光でお湯が沸かせるコンロ&ポット	兵庫
168	避難所における「非接触ICタグ」と「携帯電話を利用したリーダー」による「安心健康管理システム」	障害者高齢者は自己情報を登録したICタグを持っておく。災害時には避難所で携帯電話を利用した端末によってそのタグを読み取り、健康管理センターへ送る。健康管理センターはGPSを搭載した介護移送者の管理も含め、障害者高齢者に適切なサービスを提供する。	福岡
169	視覚障害者用「香り」「音」による「危険警告コーン」「避難所誘導コーン」の企画	視覚障害者に危険を知らせる区域に音と一定方向に香りが流れる危険警告コーンをつくってならべる。危険警告コーンとは別な音と香りで避難所誘導コーンを作り、避難所誘導に役立てる。	福岡
170	でんでんコミュニティハウス	2階までスロープで上げられるコミュニティハウスの設計図。緊急時に避難所の機能を持つ多目的施設。平常時は地域のコミュニティ施設として活躍。小中学校区に1ヶ所の建設を目指す。	新潟
171	非常用携帯周波数の確保	通常の携帯電話使用とは別に、非常時の障害者用周波数帯を設置し、緊急時の障害者の情報確保を行う	京都
172	地域迅速防災Network	障害者の家には緊急時の通報装置をつけ外部に支援が必要な事を知らせるようにする。町内会などは支援のための予備知識の回覧をしたり、研修会を開く。このような地域のネットワークを作り災害時にすぐ対応できるようにする。	大阪
173	災害時要援護者救援システムづくり	1995年からボランティア連絡協議会で、災害弱者救援システムづくりを開始。障害者も防災訓練に参加したり、中学生がボランティアとして参加している。(静岡県御殿場市)	静岡



	アイデア名称	アイデア内容	地域
174	防災グッズ「てるてるぼうず」	車いす用の雨ガッパのように全身を覆えるもので、トイレや着替えなどをするとき、他人の視線をさえぎる。	静岡
175	防災グッズ「折りたたみ式トイレ」	折りたたみ式のイスの坐るところを便座にし、ビニール袋を取り付けたパケツを便座に取り付けられるようにしたもの。	静岡
176	仮設住宅	仮設住宅を円形に並べる事で、中央に物干し場をつくる。ヘルパー的な人が入っていればなお良い。	静岡
177	声によるコミュニケーションを苦手としている方向け支援機器	電話型と電子手帳型のコミュニティボード。文字盤を使って音声を出すトーキングエイドのようなもの。	大阪
178	長文読解で防災知識UP	中学の英語の教科書に災害の経験談や防災知識の書かれた内容を入れる。英語の読解でただ読むよりも自然に頭に残る。	兵庫
179	津波から市民を救う建物	津波の時に逃げ遅れる可能性がある災害弱者の人を守るため、ビルなどの高い建物にシールを貼り、避難場所にする。	兵庫
180	障害者市民から子どもたちに呼びかけ、社会を変えるアイデア	保育園から高校まで障害者自身がアピールできるカリキュラムを作る 障害者主体で動いていくことが重要	北海道
181	災害時の障害者発見とGPS端末装置の利用	行政が補助金を出し、GPS機能が付いた端末を障害者に配布し、逃げ遅れた場合などはスイッチを押す事で居場所を知らせる。	北海道
182	ふれあいレスキュー	各地域の障害者・高齢者などの人数を把握し、人数による色分けをしておき、助けのいる人数を割り出して、災害時には連絡拠点から派遣する。	兵庫
183	地域でのサポート体制	校区や自治会ごとに障害者のサポート体制を作る。担架、車椅子の保管場所や障害者の所在地を把握するセンターも必要。	大阪
184	聴覚障害者と視覚障害者に災害を知らせる方法	視覚障害者用のメロディが流れる信号機に災害時には別なメロディを流すようにする。聴覚障害者にはパトライトやフラッシュライトを利用して知らせる。避難所がどこか知らせる体制も年に4回ぐらい必要。	奈良
185	ともに生きるために	井戸や手押しポンプを公共施設に設置する。簡易トイレを各町内会に用意する。集団生活が難しい人のために空き教室を使えるようにする。手助けが必要な時にSOSがわかる布(ハンカチ)を見せるなど。	兵庫
186	無線式緊急要請装置	1.屋内外での被災した時は携帯で大きな音と音声で救援アナウンスができるようにする。2.屋内で閉じ込められた時は信号を発し、電柱に取り付けたスピーカーや街灯の点滅で救出を求める。3.近隣の人で助けが難しい場合は、衛星通信を使いGPS機能で居場所を知らせ、救援を求める。	大阪
187	災害が来たとき障害者が助かる安心できるような社会になるように	聴覚障害者の立場から、音声情報だけでなく、視覚的な情報伝達アイデアや現在の問題等を提案。紙に書く、字幕を準備する。171災害伝言ダイヤルについてはインターネットでもできるように(ノートパソコンで使える)。	兵庫
188	なし	東海豪雨の経験を元に避難訓練の実施や家具転倒防止策など、実際に行っている。安否確認のために携帯電話のメーリングリストを職員や施設間で作成している。	愛知
189	反動・反物質作用	液体燃料を使わずに自力で飛ぶ飛行機。	兵庫
190	地区専用大型テレビ	地区とか地域の被災した人たちに食料、薬、その他必要なものがどこの避難所にあるかわかるように、被災地区専用大型テレビがあると良い。	兵庫
191	みんなで助け合える街づくり	小学校の頃から学校で応急処置を学ぶ。障害者が困っている時に、信号を出し、タクシーのカーナビや信号機に取り付けたカーナビのようなものへ位置情報を含め連絡し、支援ができるようにするなどのアイデア。	愛知
192	台風	火に気をつける。訓練をする。地震がおきたら机の下に隠れるか、竹やぶに行く。火事にならないように注意する。	兵庫
193	地震の時にはまず火の始末	地震の時には火の始末。ガスの元栓、電気のプラグをはずす。お風呂に水を張っておく。	兵庫
194	備蓄発電システムの普及	地震発生によって停電した場合、非常灯が使えるように、電気を予め蓄えるシステムを備え付ける。	兵庫

	アイデア名称	アイデア内容	地域
195	台風被害軽減のために	テレビなどで台風がきそうな日の前日に、車、パソコンなどのものを安全なところへ移動させておく。	兵庫
196	ムダな話をする会	テーマは作らず、地域の中でお茶・お菓子で「ムダな話をする会」をする。高齢者、障害者が参加する事で、普段からのコミュニケーションができる。	兵庫
197	防災グッズ、夜でも安心	常に防災意識を持って、夜寝る前に枕元に懐中電灯、ラジオ、水筒、ヘルメット、靴を置いて置くようにする。	兵庫
198	障害者用防災マップ	防災マップの中に車椅子でも利用できるトイレ、避難場所のバリアフリーマップをのせる。	大阪
199	災害にあったときの対応	いざという時集合場所を子ども達と話し合い、それぞれの集合場所を決めた。大きな家具の横で寝ないようにする。	大阪
200	各マンションの部屋にスピーカーをつける	災害が起こった時に、障害を持った方々に声がちゃんと届くように、部屋にスピーカーをつける。スピーカーはマイクの役目もする。	大阪
201	いざ！というときに運んでくれるロボット	地震の時などに車椅子に乗った人を担いで避難場所まで運んでくれるアイ・ロボットのロボット。	大阪
202	キャンピングカー S t a t i o n	災害の時のためにキャンピングカーを用意しておく。予め登録している医者や看護師、ヘルパーがそこを拠点に活動する。	大阪
203	市教育委員会の提言	小中学校へのバリアフリー計画の推進。災害時自分の勤め先の体育館が2階だった事からの教訓。	大阪
204	サポーター(介護者)バンク(銀行)	災害時には普段サポートに入っている人が支援できなくなるため、全国レベルで登録をしておき、災害時にすぐに派遣できるようにする。	大阪
205	消火ロボット	リモコンで操縦できる消火器、移動できて火元にホースの口を向けて消火液を出す。	大阪
206	救済ネットワーク	自治会、学校、公民館、行政、警察、病院の緊急連絡網。障害者の申出により、一番近い組織の人が支援する。	大阪
207	災害時対応型ショートステイ事業	災害時に障害者や家族も含めたショートステイ事業ができるように場所や人を確保する。	大阪
208	災害用無線無料配布	障害者の世帯に災害用無線を無料配布する。費用は行政もちで、携帯やトランシーバーでも良い。無線で災害状況や避難場所配給場所等を知らせるようにする。	兵庫
209	透析患者の防災システム	透析患者の所在把握が防災部局で出来ていないことから、官民で共有するとともに防災システム構築を図る	兵庫
210	聴覚障害者用緊急連絡装置	災害時に電話の呼び出し音によってパトライトと床面振動機(電気式肩たたき機でできる)により情報のあることを伝える。情報内容はパソコンやテレビ画面によって案内する。	大阪
211	ハザードマップ	地震や集中豪雨で危険が予想される場所をWEBやモバイル(携帯)で配信する。また障害者にとって安全な避難経路も配信を行なう。	兵庫
212	竹の新しい物語を未来に 防災林よりはじめよう	竹を地域のコミュニティに据え、竹を使っての行事とともに、情報交換を図る。地震の時には竹林が強いとされている。	大阪
213	あんぴネット	自力で避難が困難な人の情報を各自治体でデータベースにしておく。各自治体のデータベースはネットワーク化しておき、広域の災害にも対応できるようにする。	大阪
214	障害者サポートマシン	携帯型の機械でもので、電光掲示板、ライト、ラジオ、警報装置、GPS機能がついたもの。	兵庫
215	安心の黄色いステッカー(旗、ハンカチ)運動	現在子どものための「こども110番」として、子どもがいつでも駆け込める場所作りの運動をしているが、その障害者版をつくる。バリアフリーとなっている箇所にもステッカーを貼る。	大阪
216	理想的なホーム階段の誘導用ブロック	点と線のブロックだけでなく矢印の入った点字ブロックを考案。視覚障害者のスムーズな誘導を点字ブロックで行なう。	東京
217	雨水で浮かぶ家	雨水をクッションとし、家全体が浮かぶ。出入口はスロープにする。(模型写真添付)	東京

	アイデア名称	アイデア内容	地域
218	避難場所の確保について	認知症の高齢者は大きな集団は難しいので、空き教室を利用した避難所とする。寝たきりの人のために、エアマットやクッションを準備しておく。	新潟
219	防災時避難システムづくり	自閉症などの人が専門の施設にすぐいけるようにシステム作りをする。地域ぐるみの援助システムを作成しておく。	新潟
220	ローテクとハイテクで幾重ものセーフティネット	過去の水害経験から、情報伝達の問題を感じた。そこで火の見やぐらの復活(半鐘を鳴らす)。障害者宅に、定められたマークを張り、支援が必要な事を示す。救助が必要な場合緊急用ランプで知らす、などの方法を取る。	新潟
221	会員登録	何かあったときのために「助け合い会員」の登録をしておく。会員情報を登録しておき、何かあった場合は電話連絡を行なうとともに、連絡ができない場合は訪問する。	新潟
222	携帯電話のメールを活用した防災防犯事業	応募団体が実際に行っている「携帯電話のメール機能を利用して災害情報を伝達」の紹介	新潟
223	ハイテク点字ブロックとFMミニ放送局による災害時障害者誘導システムの構築を	FM電波発信ワイヤーを埋め込んだハイテク点字ブロックを利用し、平時、緊急時にFM放送で情報を流す。	大阪
224	救命クッション	ふわふわの素材で作ったクッション。3階から飛び降りても大丈夫な救命クッション。高いところからの避難に役立つ。	札幌
225	エアージャケット	パラシュートと空気の入ったジャケットで、高いところから飛び降りても大丈夫なようにする。	札幌
226	空中作業車	ジェットエンジンで空を飛び、人間の避難や消火ができる機械。	札幌
227	エアゴンドラ	空気で膨らますゴンドラ。酸素ボンベや人工呼吸器などを積んでいる。	札幌
228	発見ブザー	障害者の方が早期に周辺住民に気付いてもらうため、常日頃から防犯ブザーをみにつける。	大阪
229	生活コミュニケーション	消防団青年部の若手の力を借り、障害者・高齢者の人たちと交流を図り、自然災害時に役立てる。	大阪
230	なし	災害時に無線等を使い近くを通るトラック・バス・タクシーと連絡が取れるようにする。安否確認がスムーズにできるように公的施設からメールができるようにする。各地域で避難訓練を定期的に行なう。	大阪
231	水陸両用車イス	浮き輪とスクリュウのついた車椅子。	大阪
232	なし	リヤカーのような簡易な荷台で、力のない人でも高齢者等の避難ができるようにする。また避難所は心を落ち着かす事ができるように周囲に緑を多くする。	大阪
233	なし	水害や震災になった場合に、どこに避難すればよいかという事を事前に把握しておく。	大阪
234	なし	避難施設として旅館やホテルの無料貸し出し。携帯会社から聴覚障害者へのメール機能の付いた携帯の貸し出し。	大阪
235	両開きドア	災害時にはパニックになって、内開きドアは引かずに押してしまうと聞いたので、内、外どちらにも開くドアが良い。防犯のために、外側にドアノブはつけない。	大阪
236	住宅地図ソフトと福祉台帳の連動	社協の福祉台帳と電子地図の連動 福祉台帳は様々な福祉サービス(訪問介護や福祉機器の貸し出しなど)の台帳を統合し、災害時の支援台帳とし、地図システムと連動させることをすすめている。	福岡
237	災害ボランティアセンター設置運営マニュアルの策定	災害時にボランティアセンターがスムーズに活動できるよう現在マニュアルを策定中	福岡

	アイデア名称	アイデア内容	地域
238	なし(パケツ型救急箱)	パケツ型救急箱で、パケツとして使用もできるし、下部に浄水機能を持たせ、浄水器としても使用できる。	大阪
239	模擬避難所体験を通じた防災マニュアル作り	一定期間の避難所生活を体験するプロジェクトを提案 2005年夏に実施予定 体験に基づいた避難所マニュアルを作成する	大阪
240	中学生の協力で安否確認と避難誘導	横浜市港区日隈山では4年前より、中学生が授業で防災訓練を実施。昨年は要援護者の安否確認をテーマとした。	神奈川
241	部屋ごと熱気球	車のエアバッグのように、エアコンを利用したバルーン(熱気球)が出来る仕組みを作り、部屋全体が浮かんで移動	大阪
242	必要なのは勇気	台風による水害経験をもつ障害当事者が感じたこと、経験したことの作文。障害を持っていることで他人の世話になる事に抵抗があったが、自分自身が遠慮せず、気力を出すことが防災につながると感じた。	岡山
243	なし	携帯電話に情報流す場合に、通常のシステムとは別な緊急回線に対応する。また携帯は音声とディスプレイによる表示のほか、点字ディスプレイがあればよい。また予め住んでいるところを登録しておき、近所の人を駆けつけることも必要。避難所は電動車椅子でも利用できるようになど。	大阪
244	目で見る(字幕スーパー入力者の要請事業)災害情報と知識	聴覚障害者にとっての字幕はまだまだ少ない。字幕を入力できる人を増やし、聴覚障害者が目で見て防災知識を学んでいければと思います。	長野
245	防災訓練は大きな輪で	グループホームは防災訓練まで行き届かないことが多い。小学生や自治会なども巻き込んで、年2~3回の防災訓練が必要	長野
246	こんな防災訓練をしてみようヨ!	健常者だけでなく障害者市民の方を含めた防災訓練を計画して欲しい。施設の障害者ではなくて地域に住む障害者と一緒に、車イスや手話などいろんな体験をしよう。	長野
247	ケアマネ情報を防災につなげる	ケアマネージャーは守秘義務を持っているが、災害時にはその情報で支援ができたと聞く。介護事業所がもつ情報を行政や自治会と共有し、災害支援システムをつくってほしい。	長野
248	非常時専用のリュック(必須防災グッズのマニュアル化)	災害を経験していない人にとっては、避難時にどのような防災グッズを用意してよいか分からないので、「これさえあれば大丈夫」という非常用リュックを提案。リュックにポケットや仕切りをたくさん用意し、各ポケットに入れるものを表示しておく。このことによって忘れがすぐに分かる。	大阪
249	災害サポーター要請・体験事業	身近な公園、利用施設での避難所体験プログラム作り。家庭でライフラインが止まったことを想定しての避難訓練。様々職種によるサポート体制研修。そのほか救急時の発信機や膨らますと足を伸ばせる風船形ドームなどの防災グッズのアイデアなど。	神奈川
250	たすKEY~携帯型たすきによるサイン~	見えない、聞こえないという状態は外見的に分かりにくく、周囲の人間が配慮しにくい。そこで災害時に自分の意思で「たすき」をかけ支援を求める。たすきの色は障害の種類に応じて全国で規格化する。たすきに支援して欲しい事、中止して欲しい事を書いておく。	東京
251	家具を倒すな	部屋の配置を工夫して寝室に家具を置かないようにするとともに、家具の転倒防止を行なう。現在の家庭は家屋に対して物量が多い。レンタルなどで物量を減らすのも対策の一つ。	京都
252	滑りにくい火ばさみ	天ぷら油の火災は鍋にふたをする事で消火できる。しかしあわてているとなかなかふたができない。ごみ拾いなどで使う金属の鋏の先にゴムホースを50cmほどかぶせると安全で滑りにくい火ばさみができ、ふたをするのが簡単になる。	京都
253	建物の避難梯子装置	梯子を2個組み合わせることで建物の壁面と3角形柱の状態を作る。避難者はその内部を伝わって降りると安全で、しかも梯子は折りたたみ式なので、日常は場所をとらず、安価に設置ができる。使い方も簡単。	京都
254	防災時のホテル活用事業	避難所は小学校や公民館、体育館が一般的であるが、障害を持つ人には難しい事が多い。そこで災害時にホテルなどを予め登録しておき、その宿泊施設を利用する。	兵庫

	アイデア名称	アイデア内容	地域
255	天蓋付ベッド	地震の時に建物の下敷きにならないように、ベッドの四隅に柱を立て梁を作り、寝ている人を保護する。またベッドに笛を付けておき、近所の人を呼べるようにしておく。	大阪
256	ベッドマットをタンカーに	ベッドマットはある程度の強度を持っているので、四隅に取っ手を付けておき、タンカーとして使えるようにしておく。	兵庫
257	笛	常に笛を持参する。笛はネックレスにいつもつけていられるようにデザインも考える。	兵庫
258	呼子笛の着用	災害が起きた時障害者が孤立してしまう事が発生するので、存在を周囲に知らせるための手段として呼子笛を普段から首につるし携帯しておく。	大阪
259	災害弱者用災害ブザーの作成と配布	防犯ブザーと同様に災害時に助けを求める時に「ここに居る」という事を知らせるブザー。防犯ブザーと違って音を工夫すればよい。またこれを障害者・高齢者に無料配布する。	大阪
260	災害弱者の名簿作成と避難場所の再考及びマップ作成	避難場所は高校のほうがエアコンの設置率が高いと思うので、高校に。避難場所についてはマップを作成し、各家庭に配布する。また災害弱者の名簿を作り、地域役員や福祉支援団体に配布する。ボランティア関連の団体を日頃から育成する。	大阪
261	みんなが安心、ホットステーション	避難生活は精神障害者にとって大変なストレスとなる。専門家（精神保健福祉士）にってもらい、不安に対応できるシステムと、仲間と安心して暮らせる部屋が必要。	兵庫
262	S O S 発信ラジオの開発	災害時に「助けてください」という旨の内容を流すエンドレステープが流せる機能と、ライトを備え付けたラジオの開発。	大阪
263	心の輪ネットワーク事業「高齢者・障害者見守りサポート隊」	見守りサポート隊を結成し、地域の巡回、高齢者・障害者宅の訪問を災害のない時でも行なっておく。地域の世話人や医療施設、避難所などをマップにまとめておき配布する。	兵庫
264	災害用寝袋	災害が起きた時の障害者用の寝袋を準備しておく。	新潟
265	災害に備えて若しくは災害時に情動的、物理的、精神的バリアを持った方々にNPOはどのようにしていくべきなのか？	阪神淡路大地震の被災地域の支援センターとしてやるべきことを、安否確認、避難誘導、避難所、仮設住宅について箇条書き。地域コミュニティを図る事業。障害者が使える避難所マップの作成。ケアつき仮設住宅の建設など。	兵庫
266	障害者サポートセンター	医療機関、安全管理、緊急時の対応などの視点から障害者を中心としてサポートのネットワークをつくる。各関係機関でスムーズなサポートができるように調整しておく。	大阪
267	みんなの学校	避難所としての学校の改善。バリアフリー化。選挙時に避難所となる所を障害者・高齢者にチェックしてもらう。障害者・高齢者・乳幼児が居る人などが利用できるスペースを優先的に確保する。そのほか災害時に信号にスピーカーを取り付けておき、避難場所などの情報を流す。	大阪
268	緊急時一人でも運べるタンカー	車輪と安全バンドの付いたタンカー。安全バンドを利用して相手を横向きにし、一人で担架に乗せることができる。	神奈川
269	聴覚障害者の緊急時や災害時の通報システムやコミュニケーション機器	衝撃や振動に強く、パソコンのように情報収集ができたり、GPSにより位置情報を発信し、助けを求める装置の開発を望む。	兵庫
270	なし	水害時に安否確認に手間取った経験から、障害者サポートホットラインのシステム化と関係者・機関のネットワークを作ることが大切と感じる。早期のニーズ把握と支援のために。	兵庫
271	災害パートナー	今回の災害(新潟県中越地震)ですぐに駆けつけられなかった経験があり、近所の人を「災害パートナー」として事前に契約しておき、いざという時すぐの支援を受けられるようにすれば良いと考える。	新潟

	アイデア名称	アイデア内容	地域
272	人とのつながり	障害者や高齢者は普段から自治会など地域のつながり、人間関係を密にしておく必要がある。自治会の役員の方の確認や避難場所の確認も必要。その事でいざという時大きな支えあいができる。	兵庫
273	なし	避難施設のバリアフリー化。重度の障害を持っていても利用できる避難所を教えておいて欲しい。ヘリコプターにセンサーを積むなどし、人を感知するシステムが必要。キャタピラの付いた電動車イス。避難支援に行った時のボランティア休暇制度の創設など	兵庫
274	障害者のための相談業務のネットワーク作り	災害をきっかけに調子を崩した経験から、役所や近隣の施設で相談や薬がもらえる様な機関が欲しい。そのため医療と福祉が地域支援ネットワークをつくる必要がある。	兵庫
275	防災ナマズ館	地震予知にはナマズが一番と思うので、ナマズ館を建設し、地震をいち早くキャッチする。	不明
276	国民の4大義務	親族もしくは家族単位で暮らすことを義務付けして、いざという時一人での状態をなくす。	大阪
277	昔の5人組のような	近所付き合いが第一で皆で避難する。	大阪
278	なし	病院近辺の歩道の幅を広げ、普段は車止めをし、災害時は緊急車両の通行のみに使用する。	大阪
279	なし	水、食糧の備蓄をどこにどれだけあるかみんなで検証する体制を作る。またSOS発信機のようなもので、誰がどこで困っているかを知らせる仕組みを作る。	大阪
280	なし	各コンビニにその周辺の避難所及び病院等のマップを設置しておく。	大阪
281	防災警報	防犯ブザーのようなもので、災害時に救援を求める時に、軽く握るだけで大きな音や光を出すスティック上のものをつくり、置いておく。	大阪
282	お願いパトランプ	家の屋根や目立つところにパトカーのランプのようなもの設置してボタン一つで点滅し、救援が求められるようにする。	大阪
283	友達感覚防災センター	行政、一般企業などで防災・減災のための発信拠点を共同出資で設置させ、各地域単位で情報提供、研修、防災訓練を行なう。日常は市民の憩いの場。	大阪
284	行政がお助けmap	行政と市の労働組合が行政区単位で障害者の個人の情報や場所を把握する。災害時には給水や復旧作業だけでなく救出活動なども行なう。	大阪
285	なし	防災具(消火器、ヘルメット)を各家庭一組持つ事を義務付け。	大阪
286	備えについて	駅や病院、コンビニなど人の集まるところに避難所の案内板を設置する。役所の屋上にソーラーパネルを設置して緊急時に備えて電気を蓄えておく。	大阪
287	防災グッズ	ベッドで寝たきりの方や車イスの方のベッドの下に、キャタピラー式の車が付いていて、熱を感じると上の部分に透明のドーム型のカプセルが出てきてその場を離れる事ができる。	大阪
288	手話が地球を救う	タイトルの通り、手話ができる人たちを登録制でバンクを作り、いざという時出動してもらおう。手話レスキュー。	大阪
289	防災ベッド	高価な既製のものではなく、各自自宅のベッドに細工し、防災リュック、GPS付携帯電話、地図、ラジオ、発電式サイレンなどを常備し、いつでも手が届くようにしておく。	大阪
290	多言語防災ネット	日本語が話せない外国人を障害として捉えるなら、その人たちを対象に多言語凱旋放送をすると良いですね。	大阪
291	食べ歩きmapで安心隊	長田でお好み焼きやさんmapが大人気で、即無くなったと聞く。このように誰もが関心を持つmapの中に、障害者の居住場所や高齢者の居住場所を似顔絵入りで掲載されるといざという時に役立つ。	大阪
292	ゆめ・風応援隊	地域住民との連携を具体的に進めていくには、「ゆめ・風」の活動が広く知られることが大切。NHKのステッカーやこどものかけこみ寺の表示のように、「ゆめ・風」のロゴを作りステッカーにして協力者にはってもらい、ポスター等の掲示協力などももらう。	大阪

	アイデア名称	アイデア内容	地域
293	被災障害児・者について「本人活動を通したつながり作り」	豊岡の水害では家族や個人のつながりが中心で動いたが、様々な連携を行なうためのコーディネート機関を設置し、信頼を持ってサービス提供ができる仕組みが必要。また地域への広がりには当事者が中心となって活動をしていく事で輪が広がると思う。	兵庫
294	水に浮くベッド	ベッドの下に船舶の救命ボートや飛行機のライフジャケットのような瞬間的に膨らむ浮体を取り付ける。ベッドが水につかったときは紐を引っ張るかセンサーで浮体が膨らむ。数日分の食料や非常用グッズも入れておく。	大阪
295	軒先救命ボート	家の軒先やベランダの軒先に、船舶用の救命ゴムボートをつるしておく。中には雨をしのげるカバーや非常食を装備しておく。	大阪
296	避難所マップ作りと救済体制の確立	車イスの対応可能な施設地域がどこにあるかを正確に把握するために、行政やボランティアグループ、当事者などが協力してマップを作り、必要とする家庭に配布する。協力してもらえらる施設にはラベルやプレートなどで表示をする。	兵庫
297	なし	何より大切なのは地域の人との結びつき。ご近所でグループを作り障害者市民がいるということを知ってもらう。地域で避難所点検や避難訓練を行う。避難所ではぎりぎりの状態であるので、プレイルームを作ったり、色々な道具、遊具をおいて欲しい。	兵庫
298	防災シート	家族の状況や注意事項、提供できる物資などを予め記入する防災シートを作る。1件につき5枚程度記入し近所や自治体(県外も含めて)で保管する。これを集計する事で災害時のその町内での必要物資がすぐに分かると思います。	不明
299	生命反応探知機	映画のエイリアンに出てたような探知機で、電源は太陽電池。生命反応を知ることができ、三次元表示してくれる。	大阪
300	小さな笛	ネックレスの型の先に笛を取り付け、災害時に助けを求める。	大阪
301	マイ防災カルテを作ろう！	介護支援事業所、支援費関連施設、行政、当事者、ボランティアなどで災害時の連絡先や必要な支援などを書いた防災カルテを作る。窓口となる人はアドバイザー的な役割を担う。	愛知
302	障害者の居住環境の安全性を高めよう！ 障害者防災アドバイザーと家具転倒防止ボランティアの育成	一人暮らしの高齢者や障害を持つ人は、家庭内の防災対策が難しい 当事者の生活を良く知る防災・家具転倒防止ボランティアを育成、災害減を図る。	愛知
303	障害者施設を防災拠点に！	無認可の作業所を防災拠点とし、防災研修や防災訓練等様々な防災プログラムを実施する。	愛知
304	なし	障害者市民が居住している家の玄関に統一したシールなどを貼るとともに、そのような方が居る家庭の地図を作成、災害時には校区の中学生や高校生に支援をしてもらう。	大阪
305	なし	障害者個人情報の自主登録。障害者へボランティアリーダーの育成。各ボランティア団体への緊急応援要請体制の整備。防災マップの作成。避難場所の電光掲示板、音声ガイダンスの設置。	大阪
306	防サイクルライト	自転車で発電できるシステムを避難所に何十台か確保しておく。蓄電装置も準備。	大阪
307	簡易トイレ	折りたたみ式スコップ、組み立て式の箱、ビニール袋、消毒用の薬、大型のダンボールで簡易トイレを作る。	大阪
308	なし	圧死を防ぐため、建築部の強化や障害者・高齢者のための避難経路の確保が必要。避難所には簡易車椅子を大量に確保しておく。携帯電話がGPS機能付だったら電話にでられなくても居場所が分かり救出も早くできる。	大阪
309	なし	避難所には災害専用の通信手段を確保する。地域の中で避難経路の確認や訓練を行なう。	大阪

	アイデア名称	アイデア内容	地域
310	ハード面の改良・改造	全ての歩道の段差をなくす。違法駐輪をなくすために各駅に駐輪場を設置するとともに違法駐輪は毎日撤去する。車イスで単独行動する人には発信機を取り付ける(人権の問題もあるが)。学校で障害を持つ人の介助の方法を教える。	大阪
311	防災ネットワークの確立と高齢化社会への取り組み	行政の中に防災対策専門の部課を設置し、月に一度高齢者・障害者の家庭を訪問し、避難経路や避難場所を分かりやすく説明する。地域住民による災害時の非常連絡網等を作成し、災害時の役割分担等も決め、非常事態に備える。	大阪
312	地域住民の意識改革	会社や学校、自治会の集会などで介助方法を学ぶようにし、誰もが障害者の介助を行なえるようにする。地域で防災マニュアルを作成し、どこの家庭に障害者が居て、誰が救助にあたるのかを決めておく。日常から障害者が移動しやすい街づくりを進める。	大阪
313	心のケアの実践	災害時には心が非常に弱くなる。老人ホームで動物による心のケアを実践しているところがあった。ハッピーワーカーを養成し、捨て犬を保護し、災害時に心に痛手を持った人のケアに役立てる。	大阪
314	避難場所案内板の設置	私の町には避難場所の誘導版がひとつも無く、災害時にどこに行ってもいいかわからない。案内板をつけて日常的に市民に避難に対しての心がけをしよう。案内板には車椅子マークもつける(対応しているのか?)	大阪
315	なし	ベッドに強力なエアバッグをつけ地震の際は全体を包んで守る	大阪